



1・7_食味審査 2_第7回「菊池米」食味コンクールの受賞者の皆さん 3_23日は農機の試乗体験も開催
4_審査米は同じ条件で炊飯 5_第3回九州のお米食味コンクールin菊池の受賞者の皆さん 6_販売契約

今年も米どころ菊池で2つの大会を開催

第7回「菊池米」食味コンクール 第3回九州のお米食味コンクールin菊池

— 第7回「菊池米」食味コンクール —

「第7回『菊池米』食味コンクール」を令和元年11月22日に泗水公民館で開催。翌23日には同会場で「第3回九州のお米食味コンクールin菊池」を開催しました。

菊池米のブランド化に向け、生産者のさらなる意識高揚を促すことを目的に開催しました。昨年引き続き、菊池市米飯官能鑑定士も食味審査に参加。高校生鑑定士の姿もありました。246点の出品があり、個人総合部門は栗原康敏さん（加恵）のヒノヒカリ、菊池基準登録部門は山本博之さん（遊蛇口）のヒノヒカリ、集落部門では加恵区が最優秀賞に輝きました。栗原さんは「区の皆さんと取り組んできた米作りのおかげで賞を取れました」と満面の笑顔。上位入賞者はその場でバイヤーと契約。九州や都内の百貨店などで販売する予定で、販路の拡大につながっています。

— 第3回九州のお米食味コンクールin菊池 —

良質な米作りへの意欲向上と日本市場における九州産米の価値を高め、世界への販路拡大につながることを目的に開催しました。天候不順の影響があったものの、九州各県から1168点の出品があり、個人総合部門の最高金賞には、昨年引き続き有限会社原農場の原靖さん（南関町）のこまるが選ばれました。原さんは「まさか今年も受賞するとは思わず驚いています。来年もまた頑張りたい」と笑顔を見せました。自治体部門でも昨年に続いて多良木町が優勝。菊池市は2位に輝きました。両コンクールに出品された米約1トンは、「復幸応援米」として各地に寄贈する予定です。